



# きがいの 広場 ひろば



神田小学校の子どもたち  
(全国小学校歯磨き大会)

## 各委員会の 調査研究結果報告 ..... ⑭

議会の構成・会派の構成 ..... ②

6月定例会の一般質問 ..... ⑥



## 議会運営委員会

令和6年の活動テーマ

議会の活性化について



藤本宗久 飯尾祐介 国本礼子 野北孝治  
早川高光 酒井真二 小山昌子  
(委員長) (副委員長)

## 総務委員会

令和6年の活動テーマ

健康都市おおぶのスポーツ振興について



蟹江陸孝 木下久子 国本礼子 飯尾祐介  
早川高光 太田和利 本田雅志  
(委員長) (副委員長)

## 厚生文教委員会

令和6年の活動テーマ

高齢者の外出機会の創出について



酒井真二 久永和枝 加茂康治  
鷹羽琴美 野北孝治 竹田隆憲  
(委員長) (副委員長)

## 建設産業委員会

令和6年の活動テーマ

人にやさしいまちづくりについて



宮下真悟 時安利栄 小山昌子  
柴崎智子 藤本宗久 稲葉裕加里  
(委員長) (副委員長)

## 議会の構成

■議 長 鷹羽琴美  
■副 議 長 木下久子

■東部知多衛生組合議会議員  
鷹羽琴美 野北孝治  
早川高光

■知北平和公園組合議会議員  
鷹羽琴美 加茂康治  
太田和利

■知多北部広域連合議会議員  
鷹羽琴美 宮下真悟  
藤本宗久 柴崎智子

## 会派の構成

◆親和クラブ 10人

◎早川高光  
藤本宗久  
竹田隆憲  
稲葉裕加里  
酒井真二  
鷹羽琴美  
太田和利  
本田雅志  
蟹江陸孝  
時安利栄

<◎は代表者>

◆市民クラブ 4人

◎小山昌子  
加茂康治  
木下久子  
野北孝治

◆公明党 2人

◎柴崎智子  
国本礼子

◆無所属クラブ 2人

◎宮下真悟  
飯尾祐介

◆日本共産党 1人

久永和枝

## 5月臨時会・6月定例会の審議結果

結果の表示	◎全会一致で可決、同意、承認、採択 ○賛成多数で可決等 ▲賛成少数で否決等 □ は、賛否が分かれた議案
-------	--

### 5月臨時会 (5月13日)

番号	件名	結果
議案	34 令和6年度大府市一般会計補正予算(第2号)	◎
	35 副市長の選任について 新美光良氏	◎
	36 固定資産評価員の選任について 新美光良氏	◎
その他	— 総務委員会の調査研究結果の報告について	◎
	— 厚生文教委員会の調査研究結果の報告について	◎
	— 議会運営委員会委員(正副委員長)の選任について	—
	— 閉会中における議会運営委員会の調査研究付託案件について	◎
	— 常任委員会委員(正副委員長)の選任について	—

議会構成は2ページに掲載のとおりです。

### 6月定例会 (5月30日～6月20日)

番号	件名	結果
議案	37 大府市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について 保育士等の配置基準の見直し	◎
	38 大府市デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正について 大府市デイサービスセンターの廃止に伴う規定の整備	○
	39 令和6年度大府市一般会計補正予算(第3号)	○
	40 令和6年度大府市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	○
	41 愛知県後期高齢者医療広域連合規約の変更について 被保険者証の廃止に伴う規定の整備	○
	42 市道の路線認定について 市道1389号線(共和町)、3424号線(吉川町)、4380号線(梶田町)	◎
	43 市道の路線変更について 市道4351号線(桃山町)	◎
	44 工事請負契約の変更について(屋上防水・壁面シーリング等補修工事(大府市庁舎)) 契約金額 変更前 291,500,000円 変更後 268,838,900円 契約の相手方 株式会社愛知工務店	◎
	45 監査委員の選任について 外園 茂氏	◎
	46 固定資産評価審査委員会委員の選任について 坂野明日香氏	◎
	47 令和6年度大府市一般会計補正予算(第4号)	◎

番号	件名	結果
諮問	1 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて 伊藤園枝氏 井澤正明氏 櫻井英代氏 相木美穂子氏 原田佳乃子氏	◎
その他	— 議員派遣について (5月30日)	◎
	— 議員派遣について (6月20日)	◎
	— 閉会中における常任委員会の調査研究付託案件について	◎

## 賛成・反対が分かれた議案

(全会一致の議案は省略しています)

会派名	親和クラブ										市民クラブ				公明党		無所属クラブ		共産	
議員名 番号	蟹江陸孝	本田雅志	稲葉裕加里	竹田隆憲	藤本宗久	太田和利	時安利栄	早川高光	酒井真二	鷹羽琴美	小山昌子	加茂康治	野北孝治	木下久子	柴崎智子	国本礼子	宮下真悟	飯尾祐介	久永和枝	
議案38	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	×	
議案39	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案40	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案41	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×

○は賛成 ×は反対 (議長は地方自治法の規定により、議決に加わるできません。)  
会派名のうち、「共産」は日本共産党です。

### 議案審査

#### 《5月臨時会》

#### 建設産業委員会

令和6年度大府市一般会計補正予算  
(第2号)

**問** 共和駅東駐輪場の立体化整備に伴い臨時的に設置する代替駐輪場は、現在利用されている駐輪台数に対して不足はないか。

**答** 代替駐輪場は、令和5年度の最大駐輪台数1,569台以上の台数分を確保する予定のため、支障はないと考えている。

**問** 今回設置する代替駐輪場は、立体駐輪場の整備が終了した後も運用を継続するのか。

**答** 管理者との協議が必要な箇所もあるが、基本的に残せるところは残していきたいと考えている。



▲整備される共和駅東駐輪場

#### 《6月定例会》

#### 総務委員会

令和6年度大府市一般会計補正予算  
(第3号)

**問** 王滝村及び木曾町の適切な森林管理による二酸化炭素等の吸収量に対し国が認証した「J・クレジット」を本市が購入する意義は何か。

**答** 長野県王滝村及び木曾町が創出した「J・クレジット」を購入することで、水源地との交流や都市間連携を促進し、相互の地域活性化を図るとともに、市が率先して購入することで、市内事業者が脱炭素経営に取り組む契機になると判断した。

**問** 本事業を市内事業者の脱炭素経営普及の契機とするとのことだが、市は市内事業者にどのように関わっていくのか。

**答** 広報おおぶ等で「J・クレジット」の制度及び本事業全体の説明を行うとともに、市内事業者が趣旨や目的を十分に理解した上で「J・クレジット」を購入できるように、市職員が市内事業者を個別に訪問し、丁寧に説明していく。

**問** おおぶジュニア弦楽団に係る補正予算を計上するに至った経緯は何か。また、当初、月額3千円としていた団費を引き下げる判断をした理由は何か。

**答** バイオリンやチェロを所有していない家庭の子どもが参加しやすいよう、レンタル料に係る負担を軽減するものである。さらに、団費を千円に減額することとしたのは、参加者の負担軽減と受益者負担とのバランスを勘案したためである。



▲子どもたちがバイオリンに親しむ様子

### 厚生文教委員会

**大府市デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正について**

**問** 指定管理によって運営されているデイサービスセンター2か所のうち1か所を閉鎖するのは、運営上何か問題があったからか。

**答** 2か所のデイサービスセンターは長期間にわたって赤字運営が続いていたため、このままでは指定管理での継続が難しくなるおそれがあった。今回の統合によって限られた資源を1か所に集約することで、指定管理による運営が継続でき、サービスの質を向上させることができると期待している。

**問** 長草デイサービスセンターではなく、大府市デイサービスセンターを廃止する理由は何か。

**答** 大府市デイサービスセンターは、長草よりも開設が早かったため施設設備の老朽化の状況や、市内東側地域の民間事業所の稼働率が低いことを総合的に考慮し、判断した。



▲大府市デイサービスセンター(横根町)

**令和6年度大府市一般会計補正予算(第3号)**

**問** おもちゃ美術館の整備・運営計画の策定に係る委託料が計上されているが、整備する目的は何か。

**答** 子どもの熱中症リスクが高まる中、市民から天候に左右されることなく、屋内で安全に遊ぶことができる場所を求める声が多く寄せられている。そのため、木のおもちゃを使った木育の推進のほか、子育て世帯の居場所や地域の交流の場として整備していく。

**問** 病児・病後児保育施設を整備する事業者に対し、改修費用を補助することのだが、何名の定員が予定されているのか。

**答** 病児保育室が3部屋整備されるため、1日で最大3人までの受入れが想定されている。

**令和6年度大府市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)**

**問** 国民健康保険の被保険者証の廃止等に伴うシステムの改修内容はどのようなものか。

**答** 農地10アール当たり2万円以内が補助単価で、対象となる農地の合計面積が177アールとなるため、35万4,000円を計上している。

**答** 保険証に代えて、新たに資格確認書を交付するための改修である。

**愛知県後期高齢者医療広域連合規約の変更について**

**問** 規約改正の施行日以後、後期高齢者は、マイナ保険証又は資格確認書を提示して受診することになるが、どちらも持たず医療を受けられないケースはないか。

**答** マイナ保険証を持たない被保険者全員に資格確認書を送付するため、どちらかは必ず持っている状態となる。

### 建設産業委員会

**令和6年度大府市一般会計補正予算(第3号)**

**問** 新たに有機農業に取り組む新規就農者等に対する有機転換推進事業補助金の積算根拠は何か。

# 一般質問

(16人) ※正副議長は一般質問を行わない慣例になっています。



地域経済に活力を注入し  
持続可能な大府市とするために

太田 和利 議員



**質** プレミアム付商品券事業に電子媒体を導入していく考えはあるか

**答** 商品券をデジタル化することで、様々な面で利便性が向上すると考えるが、経費面の負担が大きいため、引き続き、情報収集と研究を続けていく。

**質** スタートアップの創出・育成をどのように行っていく考えか

**答** 本市としては、引き続き、医福工連携によるウェルネスバレー関連機関とのマッチング支援を通じ、市内企業発のスタートアップの創出・育成に取り組んでいく。また、昨年度から県の事業に協力し、小中学生を対象とした起業体験プログラム「あいちスタートアップスクール」を開催している。本年度も、本事業を誘致し実施することで、若年層における起業家精神の醸成に努めていく。

**質** 「ステーションAi」のパートナー拠点となって以降の連携支援の取組はどのように進んでいるのか

**答** 本年1月から「ステーションAi」に先駆けて開設されている「プレ・ステーションAi」を活用し、スタートアップと本市の施策や地域課題等とのマッチングを図る出張相談会を毎月開催し、現在も、具体的な連携に向けた面談を継続している。

**質** 「ステーションAi」のパートナー拠点として、今後どのように関与し、どのように進めていく考えか

**答** 本年10月の「ステーションAi」のオープンをチャンスと捉え、様々な連携イベントや県のスタートアップ支援プログラムを積極的に活用し、更なるスタートアップとの連携創出に取り組んでいく。

※ステーションAiとは、愛知県が進める、日本最大のスタートアップ(革新的なアイデアで短期的に急成長する企業や組織)支援拠点



健康都市おおぶのみちづくり

早川 高光 議員



**質** 健康都市おおぶの今後の道路整備の考え方は

**答** 多面的効果が期待できる路線を優先し、ウェルネスバレー地区へのアクセスとなる都市計画道路「養父森岡線」を整備している。県が施行する都市計画道路「柘山大府線」については、それと交差する都市計画道路「大府東浦線」の国道155号から市道ウド線までが本年7月末に開通予定のため、更に北側に延伸し、柘山大府線と交差する区間までを整備するよう県に要望し、その進捗にあわせて事業化を検討する。都市計画道路「健康の森線」については、あいち健康の森公園周辺の開発計画など、大府駅とのアクセス強化が必要と判断される時点で、整備の必要性を検討し、長期的な目標として位置付けている。交差点改良については、「国道366号午池南交差点」の右折帯の設置を県に粘り強く要望し、事業に協力していく。

**質** 都市計画道路「養父森岡線」の今後の整備予定は

**答** 東海市境から県道「東浦名古屋線」までは、用地買収の状況にもよるが、令和9年度末に完成を予定している。

**質** 国道155号(瀬戸大府東海線)の4車線化道路改良工事に係る信号機の設置以外の対策をどのように考えているか

**答** 中央分離帯の設置により、本路線に合流するまでに既存の道路幅員が狭く、通行が困難であるなどの解消策として迂回路を整備するため、本年度は調査設計を予定している。今後は、迂回路の整備に関し、愛知県による4車線化事業、東海市による迂回路事業並びに周辺住民との調整などが必要となるため、県及び東海市と綿密な連携を行い、事業を進めていく。



子ども・若者の切れ目のない  
継続した支援の実現に向けて

時安 利栄 議員



**質 問** ヤングケアラーの支援に対する基本的な考え方は

**答 弁** ヤングケアラーの課題は、ケアをしている本人だけでなく、その世帯における課題であり、その解決には関係する機関同士が連携し、多機関協働による支援が必要であると考えている。

**質 問** 早期発見に向けて「子どもの権利」に関するアセスメント項目シートを学校現場で活用することを検討してはどうか

**答 弁** 児童生徒が抱える問題は多面的であり、対応策が一つとは限らないことも多いため、典型的な手法ではなく、教職員や学校関係の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして連携し、一人一人の課題などと丁寧に向き合い、未然防止、早期発見、早期対応が図れるよう努めている。今後、家庭や地域、関係機関との一層の連携を図るよう支援していく。

**質 問** 相談窓口等の周知に向けて動画等で子どもや若者向けの配信を検討してはどうか

**答 弁** 制度や相談窓口を紹介する方法として、若者文化の中で既に受け入れられているマンガを採用し、オリジナルストーリーを電子配信又は冊子を配布することにより啓発している。今後も、独自性を生かしたマンガによる周知を主軸とし、市公式ウェブサイトなどの既存の取組による周知とあわせて、認知度向上に向けて取り組んでいく。

**質 問** 民間企業と連携して、ヤングケアラーへの支援を検討してはどうか

**答 弁** 民間企業だけでなく、ボランティアや支援団体等、ヤングケアラー支援に関わる全ての地域資源と連携して、それぞれの世帯が抱える課題ごとに連携するパートナーを変えながら、課題解決に取り組んでいく。



誰でも利用しやすい情報発信を  
目指して

小山 昌子 議員



**質 問** 情報発信の在り方をどのように考えるか

**答 弁** 市民、事業者等に行政サービスの情報をわかりやすく伝えるとともに、市内外に本市のまちの魅力や「持続可能な健康都市」のブランドイメージを積極的に発信している。情報発信の目的や対象に応じて、広報紙、市公式ウェブサイト、SNS等の媒体を活用するとともに、新聞、テレビ等を通じたパブリシティを強化している。

**質 問** データ放送を活用した情報発信を始める考えはあるか

**答 弁** データ放送は、テレビの画面から市政情報や緊急情報を閲覧できるもので、スマートフォンに不慣れた市民も利用しやすい発信ツールになり得るものと認識している。その一方で、テレビの画面上の市政情報・緊急情報の視認性や掲載できる情報量などの課題もあると認識し

ているので、費用対効果や他自治体の動向等を注視する。

**質 問** 高齢者のオンライン活用をどのように推進するか

**答 弁** 「大府市デジタル戦略」では、「一人に優しいデジタル行政」を掲げている。これまでに県の高齢者デジタルサポート事業を活用したスマートフォン講座を開催するなど、早くからデジタルデバイドの解消に取り組んできている。

**質 問** 「オンライン通いの場」アプリを導入する考えはあるか

**答 弁** アプリは、デジタルを活用した高齢者のセルフケアを促す手段として有効であると認識している。今後は、本市の通いの場の情報を登録し、アプリ内の情報が充実するよう連携を進め、プラチナ長寿健診や健康長寿塾等で周知・啓発していく。

※デジタルデバイドとは、情報通信技術(特にインターネット)の恩恵を受けることのできる人とできない人との間に生じる格差のこと。  
※「オンライン通いの場」アプリとは、高齢者の身体活動の低下や交流機会の減少を改善し、インターネットを活用して、運動や健康づくりに取り組める介護アプリ



誰もがより安心して暮らせる  
大府市であるために

国本 礼子 議員



**質 問** 障がい児の保護者の就労への支援として、放課後等デイサービスを利用している保護者の延長利用ニーズは把握されているのか

**答 弁** 保護者の就労状況等を把握する中で、長期休暇中の延長利用や、特別支援学校などの卒業後から進学するまでの期間の療育支援についてのニーズがあることを把握している。

**質 問** 長期休暇中に放課後等デイサービスの開所時間延長を支援するための補助制度を創設していく考えはあるか

**答 弁** 特に夏休みなどの長期休暇サービスの時間の延長に対応することが困難な状況であることを把握している。本市としては、課題の解決に向け、利用者、事業所双方の現状について、更に丁寧な聞き取りを行い、本市独自の支援制度を早期に検討する。

**質 問** 障がい児のきょうだいがヤングケアラーと想定される場合、具体的にどのような支援ができるのか

**答 弁** 支援に当たっては、世帯が抱える課題を把握し、多機関協働による重層的な支援を実施している。特に、障がいのいる子がいるヤングケアラーの世帯には、障がい者相談支援センターが世帯ニーズに応じて福祉サービスの情報を提供し、その導入に向けた伴走型支援を行うことにより、ヤングケアラーが担っていた世帯的な負担の軽減を図っていく。

**質 問** 高齢者軽度生活援助事業券の交付枚数を増やす考えは

**答 弁** 現在は、対象となる世帯に年間48枚の利用券を交付しているが、需要と供給のバランスを慎重に見極めながら、必要な見直しを進めていく。



誰もが交流できる  
居場所（サロン）について

稲葉 裕加里 議員



**質 問** 全世代型サロンや常設サロンにどのような声が届いているか

**答 弁** 第2次大府市地域福祉計画では、多世代が交流する全世代型サロンの開設を重点事業に位置付け、開設・運営に係るきめ細かな支援を行っている。また、公民館を有効活用するとともに、社会福祉協議会の地域づくりコーディネーターと連携した団体・企業と自治区とのマッチングに取り組んできた。参加者からは、「いろいろな人と関わるのができて楽しかった」「栄養バランスのとれたおいしい食事がお値打ちに食べられた」など、多くの声が届いている。今後も、誰もが安心して暮らすことができる地域共生社会の実現を目指していく。

**質 問** より多くの人が継続して地域貢献に携われるような、健康をテーマにした新たな取組や工夫をしてみてもどうか

**答 弁** 身近な「通いの場」の一つとして、幅広い年齢層が利用する児童老人福祉センターの特色を生かして整備した「eスポーツルーム」は、若い世代が地域で活躍する場となっている。今後も、若い世代が市の施設と連携し、主体的に地域貢献できるような取組を促進していく。

**質 問** 全世代型サロンにおける食事の提供に際し、楽しく持続可能な献立づくりのために工夫していく考えはあるか



命をつなげる施策について

酒井 真一 議員



**質** 高齢者の見守り体制は構築できているか

**答** 第2次大府市地域福祉計画では、「みんなで参加する安心・安全な地域づくり」を掲げ、自治区、事業者、地域等と連携し、地域福祉活動を推進している。民生児童委員の発案により展開している「しなやかネット」は、近所同士でお互いを気に掛け合い、日常とは異なる状況を発見した場合、市へつなぐ緩やかな地域の見守りネットワークである。民生児童委員による一人暮らし高齢者や高齢者世帯等への見守りや訪問活動、避難行動要支援者の個別避難計画の作成を契機に、平常時から顔の見える関係づくりの推進、小中学校での挨拶・声掛け運動、認知症行方不明者搜索模擬訓練の実施等、住民同士がつながる機会の創出に努めている。

**質** 高齢者の熱中症対策は準備できているか

総合的な熱中症対策を推進するために、大府市熱中症対策推進本部を設置し、全庁的な準備体制を整えている。「熱中症特別警戒アラート」の対応については、特別警戒アラート発令時に開放する「指定暑熱避難施設」として、全ての公民館と石ヶ瀬会館を「クールシェアスポットプラス」に指定し、避難スペースの確保や体調不良者への飲物の提供などを行うこととしている。

**質** 総合的な熱中症対策を推進するために、大府市熱中症対策推進本部を設置し、全庁的な準備体制を整えている。「熱中症特別警戒アラート」の対応については、特別警戒アラート発令時に開放する「指定暑熱避難施設」として、全ての公民館と石ヶ瀬会館を「クールシェアスポットプラス」に指定し、避難スペースの確保や体調不良者への飲物の提供などを行うこととしている。

**質** 食品による子どもの窒息・誤嚥事故対策は、どのように行われているか

保育園では、国が示すガイドラインに基づき、食品の誤嚥による窒息事故の予防対策を行っている。保育士は、安全な食事を提供するために、子どもの食べ方の特徴を理解し、姿勢や咀嚼に気をつけるとともに、年齢や発達に応じた介助や指導をしている。

**質** 食品による子どもの窒息・誤嚥事故対策は、どのように行われているか

保育園では、国が示すガイドラインに基づき、食品の誤嚥による窒息事故の予防対策を行っている。保育士は、安全な食事を提供するために、子どもの食べ方の特徴を理解し、姿勢や咀嚼に気をつけるとともに、年齢や発達に応じた介助や指導をしている。



未来へつなぐジェンダー平等

本田 雅志 議員



**質** ジェンダー平等の視点で、各種届出・申請書の記入例の見直しをしていく予定はあるか

**答** 関係部署で情報共有するとともに、婚姻届・住民異動届の記入例については、無意識の偏見への誘導を避ける記載とするよう、速やかに見直しを行った。

例えば、婚姻届には、これまでの夫の氏を称する場合に加え、妻の氏を称する場合の記入例を新たに作成した。また、転入届についても、夫を世帯主にする場合と妻を世帯主にする場合を記載して、新たな見直しを行ったところである。

その他各種届出・申請書等の記入例についても、現在、見直しに向けて、鋭意検討を進めている。

今後も、ジェンダー平等の観点に十分配慮し、市民にわかりやすい記入例となるように努めていく。

**質** ジェンダー平等の啓発活動をどのように進めていくか

**答** 全職員に向けては、ジェンダーに関する適切な表現等の言い回しについて通知するなど、意識啓発を図っていく。

無意識の偏見を意味する「アンコンシャスバイアス」は、本人が意図しないまま行っているため、一人一人が理解する必要がある。アンコンシャスバイアスを是正するため、市公式ウェブサイトに掲載やSNSでの発信、広報紙等の特集など、広く周知を図っていく。また、地域の回覧板等による男女共同参画に関するチラシやパンフレット、各種イベント等を活用して周知啓発をしていくほか、講座やイベントの記事などをインスタグラムに掲載していく。

今後も、一人でも多くの人に「ジェンダーに関するアンコンシャスバイアス」を正しく理解してもらえよう啓発に努めていく。

今後も、一人でも多くの人に「ジェンダーに関するアンコンシャスバイアス」を正しく理解してもらえよう啓発に努めていく。



中学生の持続可能なスポーツ・  
文化芸術活動の推進のために

竹田 隆憲 議員



**質問** 部活動の地域移行について令和7年8月からの土日の地域主導のクラブ活動へ向けた取組はどういったものか

**答弁** 県のモデル事業を実施するとともに、至学館大学と連携した指導者育成プログラムの実施や、至学館大学の学生の人材バンクの運営、専用の管理アプリの活用、地域移行コーディネーターを配置しての各種調整などを実施する。また、運営体制の構築、適正な参加料などについて、引き続き協議していく。

**答弁** 運営や指導など、学校が関わらない形式での部活動の実施が試行的に行えたことや、生徒の出欠管理や活動団体のスケジュール調整、緊急時の連絡体制など、地域移行後の運営管理に向けた課題の確認ができた。

**質問** 指導者の確保の状況はどうなっているか

**答弁** 現在の部活動に関わっている指導者が継続して指導できる体制の整備に加え、市内の事業所や大学、団体などの連携や、県が開設した「あいち地域クラブ活動人材バンク」の活用など、様々な方法で指導者の確保に取り組んでいく。

**質問** 中学生が小学生と交流できない体制の構築を検討しているかどうか

**答弁** 中学校の管理外である地域クラブは、参加者を中学生に限定せず、小学生や高校生以上も一緒に活動することで、より良い活動になると考える。一方で、多世代で活動する場合、場所や施設管理、体格差や経験差による課題なども考えられるため、運営管理団体には、参加者が楽しめるよう、状況に応じた対応が必要になると考える。



持続可能な将来性のある  
男女共同参画事業となるために

柴崎 智子 議員



**質問** 男女共同参画の施策について、行政の目指すところと役割をどのように考えるか

**答弁** 第6次総合計画やおおぶ男女共同参画プランにおいて、「性別に関わりなくお互いを尊重しながら支え合う、暮らしやすいまち」を目指している。行政の役割は、プランの策定、進捗管理、制度の新設のほか、男女共同参画社会が実現できるように、総合的な推進を図る旗振り役であると認識している。

**質問** 指定管理者が担っている役割と事業の継続性をどのように考えるか

**答弁** 指定管理者が実施している各事業は、創意工夫を凝らしたものとなっている。女性の悩みごと相談が増加する中、丁寧な対応で相談者の気持ちに寄り添い、不安の軽減が図られている。事業継続を目的に、社会情勢の変化に合わせて、随時、

指定管理料の見直しを行い、昨年度は、急激な物価高騰を考慮し、指定管理料を増額した。

**質問** ミューぱらん・おおぶによるミューいしがせでの活動の位置付けをどう考えているか

**答弁** ミューぱらん・おおぶが、長年にわたり蓄積した事業実施のノウハウや人脈を生かした活動は、男女共同参画社会の実現に必要な不可欠であり、本市の大切なパートナーである。

**質問** DV被害者への支援、相談やサポート事業について、どのように捉えているか

**答弁** 相談者が避難を希望した場合には、公的な一時保護施設に案内したり、ボランティア団体による面接や警察への同行支援を行い、連携を図っている。被害女性が安心して休める場所を提供し、自立に向けて並走する活動は、重要なものと考えている。



大府市の防災対策について

野北 孝治 議員



**質問** 消防本部に消防活動用バイクを導入する考えはないか

**答弁** 消防活動用バイクの主な用途は、火災現場での消火器を使用した初期消火、救急現場での応急処置、通常の車両では進入ができない場所の捜索活動、さらには、地震などの大規模災害発生時の情報収集が想定される。本市においても、機動力の高い消防活動用バイクを活用した消火・救急活動、情報収集等は、有効であると認識している。導入に当たっては、ゼロカーボンシティの実現に向け、環境負荷の低いEVバイクや水素エンジンバイクなどを視野に入れた研究を行っていく。

れるため、凝固剤入り防臭袋、圧縮保管袋、空気抜き用ポンプの備蓄の拡充を進めている。凝固剤入り防臭袋は簡易トイレだけでなく、避難所となる小中学校体育館の洋式トイレでも使用でき、利用者が使用後に回収することでトイレを衛生的に使用することができる。

**質問** 建物倒壊のリスク対策をどのように推進する考えか

**答弁** 木造住宅の耐震改修費補助額は、最大160万円、知多管内で最も手厚い支援となっている。現在、木造住宅の耐震診断の申込みが例年以上の件数となっており、この機会を捉え、今後も市公式ウェブサイ

**質問** 避難所のトイレの衛生的な環境をどのように考えているか

**答弁** 災害時には断水や下水道設備の破損により、水洗トイレが使用できない状況が想定さ

トや広報紙、戸別訪問によるローラー作戦、建築士による耐震診断報告や耐震改修相談会などで、所有者に本市の補助制度を周知啓発することで耐震化を前向きに考えてもらい、建物倒壊のリスク軽減につなげていく。



大府市民憲章を实践するために

藤本 宗久 議員



**質問** 市民憲章にある「美しい郷土」とは、どのような郷土の姿か

**答弁** 先人たちの英知と努力により築かれた輝かしい伝統と恵まれた土地、人の和を基調としたすぐれた気風を受け継いだまちの姿であると考えている。

**質問** 日本の神話を小中学校で教えることについての見解は

**答弁** 神話を教えることで児童生徒が多様な価値観や倫理観を理解し、他者への寛容さや共感を育むことができると考える。

**質問** 大府の民話を小中学校で教えることについての見解は

**答弁** 民話は郷土の文化や伝統を学び、地域社会への愛着を育むことに役立つ。神話と同様に、内容や登場人物の行動を通じて、多様な価値観や適切な倫理観の形成に寄与すると考える。

**質問** 小中学校において、神話や民話と家族の大切さを教えることと道徳教育との関係をどのように考えているか

**答弁** 神話や民話には、美しい表現や想像力を刺激する物語などにより、読解力や語彙力の向上、国や郷土の伝統文化、社会の価値観、家族の結束、自然の大切さなど、多様な学びの視

また、授業などで家族の大切さを教えることは、児童生徒が健全な人間関係を築き、社会に出たときに適切に行動するための価値観や倫理観を養う上で非常に重要である。

道徳の授業では、民話も教材としながら、命の大切さ、思いやり、健康づくり、自律性など、社会生活を営む上で必要な事柄を自ら考え、児童生徒同士の対話を通して、深い学びとして身に付くよう、実践している。道徳教育は、健全な成長に欠かせないものと考えている。





より便利で持続可能な  
地域交通体系の構築を目指して

宮下 真悟 議員



**質問** 次期大府市地域公共交通計画策定に向け、現行計画では想定されなかった社会の新たな懸念等をどう整理し、どう向き合っていく考えか

**弁答** 全国的に人口減少や高齢化が進行しており、働き方改革の導入に伴う就業形態の変化や人材不足の課題の顕在化など、地域公共交通を取り巻く環境が新たな局面を迎えていると感じている。本市としては、交通事業者の人材確保の取組に協力するとともに、ふれあいバスの更なる充実において、運行事業者と綿密に連携を図っていく。

アリングエコノミーの動きは徐々に浸透していくものと捉えている。今後も、シェアリングエコノミーなどの新たなサービスの情報収集に努め、既存の公共交通を補完する移動支援について調査研究していく。

**質問** 公用車カーシェアリングを導入することについての見解はどうか

**弁答** 市役所開庁日の夜間や閉庁日には、ほとんどの車両が使用されていない状況であるので、職員が使用しない時間帯にカーシェアリングとして利用することは可能だと思いが、導入には課題もある。電気自動車による公用車カーシェアリングは、カーシェアリングと電気自動車の普及に加え、ゼロカーボンシティの実現にも貢献する取組と考えられるが、保有形態の見直しなど、慎重な判断が必要となるため、他自治体の事例を調査研究していく。

**質問** カーシェアリング等のシェアリングエコノミーは今後地域交通体系の中でどのような役割を果たしていくと考えるか

**弁答** 本年4月に、一般のドライバーや自家用車を活用した日本版ライドシェアサービスが開始されたように、今後、シエ

※シェアリングエコノミーとは、インターネットを介して、個人と個人の間で使っていないモノ・場所・技術等を貸し借りするサービスのこと。  
※ライドシェアサービスとは、一般ドライバーが自家用車で乗客を有償で運ぶサービスのこと。



オープンデータの活用と  
より良い公共空間の創出

飯尾 祐介 議員



**質問** 本市が公開する全てのオープンデータが網羅された公開環境を整備することについて見解はどうか

**弁答** 人流データなど、大府市オープンデータ一覧では記載していないものが一部ある。利用者の利便性を向上させるため、大府市オープンデータ一覧を更新するなどして、公開データが網羅できる環境を整えていく。

係る費用負担などについての情報収集に努めていく。

**質問** 大府駅東口に整備した多目的スペース「憩いの場」の活用状況と課題はどうか

**弁答** 昨年11月10日から利用を開始し、これまで大府駅前イミネーション点灯式を始め4件のイベントの専用利用があった。マルシェの会場としても利用され、にぎわい創出の一役を担っている。今後も、各課等に利用を呼び掛けるとともに、関連する部署から、関係団体や事業者等に対してPRを行い、イベントなどを通して多くの人に認知され、利用が増えていくことを期待している。

**質問** 3D都市モデルの整備やオープンデータ化を推進する国のプロジェクト「プラトール」への参画について見解はどうか

**弁答** 現在のところ、3D都市モデルの活用を想定する具体的な事業がないため、「プラトール」への参画は予定していないが、今後も引き続き、国の動向や先行して導入した自治体の取組内容と効果、データ整備に



▲大府駅東口の多目的スペース「憩いの場」

※オープンデータとは、国や地方公共団体等が保有している公共データを、機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開する取組のこと。  
※3D都市モデルとは、都市空間に存在する建物や街路といったものに、名称や用途といった都市活動情報を付与することで、都市空間そのものを再現する3D都市空間情報の基盤のこと。



でも、大規模な災害が発生した際には、一番身近な自治区単位で住民が協力し合って、様々なことを乗り越えていくことになる。地域内のつながりの希薄化を始めとした問題は多様化、複雑化している。画一的な施策だけではなく、その地域の特色が生かせるように、地域の声を反映した柔軟な施策の推進や、地域と行政が一丸となって解決に努める必要がある。

## 厚生文教委員会

### 子どもの多様な学びについて

厚生文教委員会は、全国の不登校の児童生徒が29万9,048人と過去最高を更新したこと、また、不登校の小中学生の38.2%に当たる11万4,217人が学校内外で専門家らの相談や支援が受けられていない現状があることに着目し、大府市の児童生徒の不登校（長期欠席）の状況はどのようになっているのか、現状及び課題を把握し、今後の市政運営に生かすため、調査研究を行うこととした。

調査研究の概要は、民間NPO「教育の機会をつなぐ〜三つ葉」との情報交換会、教育委員会職員を

講師とした勉強会、中京大学現代社会学部教授の辻井正次氏による研修会、埼玉県戸田市への行政視察、不登校特例校である岐阜県岐阜市立草潤中学校への視察を実施した。

児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指すために、学校生活での不安や困難を感じていたり、長期欠席の傾向がある児童生徒が、誰一人取り残されない教育の実現が求められている。

そのため、学校に魅力を感じ、児童生徒が通いたくなる学校、保護者が通わせたい学校、教員が働きたくなる学校の実現に向けた環境を整えるために、次の3点に重点を置いた。

#### ①魅力ある学校をつくるために

##### ①教員の多忙化解消

児童生徒と向き合う時間をより確保するため、多忙化解消を最優先の課題とし、教員の加配や、学校・教師が担う業務に係る3分類的を徹底し、重点的に業務の見直しを行うこと。さらに、学年担任制、児童生徒の理解力に応じた授業、地域・民間への業務移行も検討すること。

#### ②産官学の連携を含む教育委員会部局の体制強化

大学等の学術機関や民間の事業者等と連携し、最先端の知見を科

学的、客観的に分析することで、根拠に基づく教育施策の推進を図ること。教育施策の企画、調整を目的とする教育委員会部局の体制強化を検討すること。

#### ②不安や困難を抱える児童生徒の早期発見のために

##### ①発達障害の早期発見・分析

学習障害のスクリーニングとして「読み書き対応T.S.U.K.U.B.Aモデル」を導入し、読み書きが困難な子どもを早期発見・支援すること。また、発達障害のある児童生徒の増加理由を分析すること。

##### ②発達障害への周知・理解

社会的な周知と理解を深めるため、0〜3歳児の全ての保護者に「ペアレント・プログラム」を提<sup>※</sup>供するとともに、子どもたちにも理解を促進すること。

##### ③ヤングケアラー・虐待の早期発見・支援

国の補助金を活用し、相談支援体制の構築を推進すること。

#### ④「きらきら10」を重視した生活リズムの確立・メンタルヘルスの確認・分析

きらきら輝く子どもの10か条である「きらきら10」に基づく生活習慣調査を行うとともに、タブレット端末でのメンタルヘルスの確認・分析を実施すること。

#### ③多様な学びの支援のために

##### ①学校内での居場所の拡充

教室に行きづらい子どものためのサポートルームを整備すること。

##### ②地域、NPOでの居場所の拡充／地域への周知・理解

地域やNPOと連携し、図書館や公民館、児童センター等を活用して居場所を拡充し、地域全体が見守り役となるよう、周知と理解の促進を図ること。



▲～教育の機会をつなぐ～三つ葉との情報交換会

#### おわりに

「子どもの多様な学びについて」の調査研究を通じて、児童生徒が主体的に進路を選択し、社会に自立することを目指すために、どのような教育環境が求められるか、議論を重ねてきた。特に、専門家による支援が受けられない児童生徒への多様な教育機会の確保、そして、魅力

※3分類とは、「学校における働き方改革に関する緊急対策」で文部科学省が示した、学校業務の役割分担・適正化を進めるための業務分類のこと。  
 ①基本的には学校以外が担うべき業務 ②学校の業務ではあるが必ずしも教師が担う必要のない業務 ③教師の業務ではあるが負担軽減が可能な業務のこと  
 ※ペアレントプログラムとは、子育てに不安や難しさを感じる保護者が、子どもの行動の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てに臨む自信を身につけることを目的としたプログラム

ある学校づくりに向けた取組の重要性を確認した。

厚生文教委員会は、教育委員会策定の「おおぶレインボープラン」が掲げる「総合的な長期欠席者支援によるウェルビーイングの向上」の理念を踏まえ、子どもの多様な学びの確保に向けた提案をまとめた。全ての児童生徒が生き生きと学べる教育環境の実現を切に願う。

## 建設産業委員会

### 中心市街地の活性化について

中心市街地を含めたまちづくりを進めていく上で具体的な考え方が計画として示され、今後の大きな指針となる「大府市立地適正化計画」が令和5年3月に策定された。しかしながら、大府駅前のまちづくりの方向性は定まっていない。共和駅前についても同様で、これまで幾度となく様々な議論や動きがあったものの、大きく進んではいない。

そこで、駅前のまちづくりを動かし、中心市街地の活性化を進めたいとの思いから、建設産業委員会の研究テーマを「中心市街地の活性化について」とし、調査研究を行うこととした。



▲中心市街地の活性化を進めるための4つのポイント

調査研究の結果、中心市街地の活性化が進まない原因には、リーダーの不在、官民の役割分担が具体化されていないこと、共有されたビジョンがないこと、機運の高まりがないことの4点にあるとした。それぞれについて、次のとおり提言する。

#### ① 中心市街地活性化を進めるためのリーダーをつくる

① 中心市街地活性化に必要なリーダーとは

中心市街地活性化のための施策や事業及び予算を理解した上で、幅広い市民等の意見を集約し、計画の策定、設計、施工、管理、関係各所との連携など、全体を見通しつつ影響を及ぼすことができることに、市長や専門的知見を持つ者と関係を構築しながら推進することができると構築が必要となる。

リーダーには、個々の課題や意見に対して具体策を提案するのではなく、課題を抱えている人や幅広い市

民の力を引き出す専門的知見を活用しながら、後に述べる共通のビジョンを構築する役割がある。

#### ② リーダーをどう決めるか

まず、大府市が、大学教授など民間の専門的知見を持つ者を含む合議体をつくり、リーダーを選定する。

様々な専門家を集めたフォロー体制においては、幅広い市民の意見を集約し、共有したビジョンを構想の起案により具体化するとともに、その過程における機運の醸成も行う。そして、産・学・官・民のあらゆる意見を吸い上げる体制をつくる。

#### ② 官民の役割分担

中心市街地活性化を進めていくには、例えば、区画整理や道路などの新設等、大規模な事業化、予算化が必要であり、リーダーと市長との信頼関係、協力関係が必須である。

リーダーを補佐する合議体の体制づくりは、まずは市が主導的に進めていくべきものと考えられる。そうすることで、リーダーと市長との間に絶対的な信頼関係が築きやすくなり、官民の連携がスムーズになると考えられるからである。

官民の連携においては、構想、計画の段階から、施工、計画変更、竣工後の管理、利用に至るまで、まちづくりに対して多くの人が関わられる体制づくりが必要と考える。

#### ③ 共通ビジョンをつくる

市民のためのまちづくりだからこそ、共通ビジョンをつくることに注力することが重要である。その過程においては、リーダーと補佐する合議体を中心に専門的知見を生かし、特定の立場や特性に偏ることなく、地域、職業、老若男女、未婚、既婚など、様々な意見を集約し、構想案に反映していく。

そして、共通のビジョンをまとめる段階においては、ハード面だけではなく、まちにどのような機能を持たせるかという駅前のまちづくりの目的を明確にする必要がある。

このようなプロセスで作成されることにより、官民一体となったまちづくりが進むものと考えられる。

#### ④ 機運を高めていくために

機運は、多くの市民を巻き込んで意見を集約する過程において醸成されていくものと考えられ、共通のビジョンが作成されることで官民一体の機運が出来るものと考えられる。

#### おわりに

中心市街地活性化を進めるためには、「何をつくるか」ではなく、「何を始めるか」という方法論が必要であり、それが建設産業委員会から市への提言の本旨である。駅前のまちづくりが動き出すことを大いに期待する。

※ウェルビーイング(Well-being)とは、身体的・精神的・社会的に満たされた状態のこと。

## 議会運営委員会

議員の請負に関する規制の明確化  
及び緩和等に対する対応について

近年、全国的に地方議会議員のなり手不足への対応が喫緊の課題となっていることを背景に、令和4年12月に地方自治法第92条の2の規定が改正された。この法改正に伴う

大府市議会の対応について調査研究を行った結果、大府市に対し請負をする議員は、その対価として支払を受けた金銭の総額や概要などを議長に報告し、その報告の一覧を公表することを定めた要綱を制定した。これは、令和5年4月1日に始まる会計年度における請負から適用される。なお、この要綱の制定と並行して、大府市議会議員政治倫理条例第3条第6号の規定の見直しについても議論がなされたが、今期の議会運営委員会では結論を見ることができなかった。引き続き調査研究が必要との見解でまとまった。

## 常任委員会の視察報告の

見直しについて

常任委員会の視察報告については、委員会と全員協議会において、それ

で行われていたが、令和6年度は、全員協議会において、執行部の関係職員の出席を求め、視察に参加していない議員や執行部の関係職員の質疑応答を同時に行う方法を試行することとした。その形式での報告を検証の上、先例集改正の適否について検討していく。

## 議員用タブレット端末について

令和元年12月に貸与を開始した議員用のタブレット端末については、令和7年秋までに更新を行う必要があるため、前期に引き続き、次期の議員用端末に求められる仕様について調査研究を行った。

議会運営委員会において、幾つかの導入方法の費用を詳細に見積もった結果、現在の方式を変更する場合、委員の多くが想定していたよりも、新たに発生する費用が多いことが判明した。また、そうした新たな費用を掛けてでも得られる効果が現時点では見いだせなかったことから、次期の端末の更新は、ネットワーク環境のコストやセキュリティの高さから、現在の方式を継続することが適当であるという意見でまとまった。

しかし、将来的には、現在の方式を改める必要性が出てくる可能性も否めないため、仕様の変更は、そ

の必要性が出てきた時点で検討することとした。

なお、今期は「端末の活用」にまで議論が至らなかったが、本会議・委員会への私物の端末の持ち込みの可否、様々な事情を抱える議員を想定したオンライン会議など、今後も議論や調査研究を進めていく必要があると考えている。

## 大規模災害に備え行動する議員宣言に基づくセルフチェックリストの見直しについて

大府市議会では、大規模災害発生時に、議会が議事機関としての役割を全うすることにより、市民の安全に寄与することを目的として、令和2年5月に「大規模災害に備え行動する議員宣言」を行っている。そして、「宣言項目ごとの具体的行動についてのセルフチェックリスト」を作成し、毎年1回、各議員が自己の取組状況についてセルフチェックを行うようにしている。

本年1月1日には、令和6年能登半島地震が発生した。そのような過去の震災等における教訓から、ガソリンスタンドの機能不全や混雑によってガソリン等の燃料が入手困難となり、議員が活動できない状況を回避するため、「議員が普段使用する

る自家用車の残燃料(ガソリン、軽油、電力、水素等)を常に一定以上確保すること」をセルフチェックリストに加えることとした。

## 新型コロナウイルス感染症に伴う対応について

令和5年5月、感染症法上の位置付けが「2類相当」から「5類」へ引き下げられることになったため、議会運営委員会が決定した「新型コロナウイルスの感染拡大に伴う登庁の適否等に関する申合せ事項」及び会派代表者会議で申し合わせた「移動を伴う視察について」は、それぞれ廃止することとした。

## 決算審査・当初予算審査の方法について

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行されたことを受け、審査要領のとおり款項目順の質疑に戻すことについて協議を行ったが、おおむね部課等の順に質疑を行うという、コロナ禍での運用を継続することとし、両審査要領を改めた。

委員会の活動報告の詳細は、市議会のウェブサイトに掲載しています。

# 男女共同参画週間事業「議員トークショー」

## ～4人の議員が参加～

6月25日(火)、男女共同参画週間の一環として、「こんなまちにしたい・大府の未来・議員トークショー」が石ヶ瀬会館で開催され、議長と1期目の議員3人が参加しました。

本番のトークショーでは、コロナ禍の影響による若い女性やシングルマザーの貧困問題、多様性、子育て世帯の地域への関わり、性別役割分担意識やワークライフバランスといった様々な視点から、コーディネーターとのやりとりも交え、これからのまちづくりについて、各々の思いや考えについて意見を交わしました。家庭での話などには、議員たちの素の部分が見えたのではないのでしょうか？

このような機会を通じて、登壇した4人の議員以外にも、大府市議会議員を身近に感じていただければ幸いです。



## 9月定例会のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
8/25	26	27	28	29	30	31
			本会議 (初日)			
9/1	2	3	4	5	6	7
			一般質問	一般質問	一般質問 予備日※	
8	9	10	11	12	13	14
	建設産業 委員会	厚生文教 委員会	総務委員会			
15	16	17	18	19	20	21
		本会議	常任委員会 予備日※	常任委員会 予備日※		
22	23	24	25	26	27	28
29	30	10/1	2	3	4	5
	本会議 (最終日)					

いずれも午前9時からです ※予備日は、審査等の経過により開催しないことがあります

### 暑中お見舞い 申し上げます

政治家は、公職選挙法により、暑中見舞いなどの挨拶状を出すことが禁止されています。

御理解よろしく申し上げます。  
大府市議会議員一同



加茂康治 副委員長  
久永和枝 委員長  
国本礼子  
時安利栄  
宮下真悟  
蟹江陸孝  
委員長  
木下久子  
本田雅志

これから1年間、私たちが「ぎ  
かの広場」の編集を担当しま  
す。皆様からのご意見をお聴き  
しながら、より良い紙面づくり  
に努めてまいりますので、よろ  
しくお願ひします。

議会広報委員会